

市民病院広報 第12号

菟んおとし子



— 目 次 —

- 表紙（木ヶ津灣に昇る朝日） 1
- 年頭挨拶 2～3
- 在宅サービスについて 4～5
- 年男・年女 6
- お知らせ（糖尿病教室・出前講座） 7
- 市民の声、症例検討会 8
- 外来診療担当表 9
- ふるさと歴史探訪、編集後記 10

平成19年2月1日

発行 平戸市民病院
平戸市草積町1158-1

TEL 0950-28-1113

FAX 0950-28-0800

<http://www.city.hirado.nagasaki.jp/hospital/>

編集 広報委員会

平成十九年度の 幕開けにあたって

平戸市民病院長

押淵 徹



平戸市民病院は、開業から十一年が経ちました。その間、めまぐるしく変化する保健・医療・福祉政策の流れに沿って、平戸市民皆様の健康づくり（健康の保持・増進）の拠点として運営して参りました。国の財政危機、高齢社会の到来、日本

経済の減速化と共に、これから更に病院運営を取巻く環境は大きな変化が訪れる事が予測されますが、市民の皆様と共に考え共に行動し、これまでと同様、健康づくりの拠点として運営していきたいと思えます。

本年度は 病院改革の年

めまぐるしく医療保険制度は大きく変化しております。疾病構造の変化への対応、国民経済の変化に対応した改革です。わが平戸市民病院も、これらの改革に即応する必要に迫られております。本年度は、市民の皆様及び平戸市議会の理解を得て、平成二十年度からの新たなスタートに向けた準備期間といたします。

「元氣老人創出」の 取り組みを

平戸市は、高齢化率（六十五才以上の方が全人口に占める割合）が三〇％に達しています。子供さんの生まれる数の減少、若者の職場が少ないため平戸市外に流出等の要因で、高齢者を支える青壮年層が少ない社会になっていきます。子供さんが生まれ育てやすい環境整備、若者の職場を作る努力も必要ですが、青壮年層の方々に介護を受けなくても生活ができれば、老後の心配は軽減されることとなります。

平戸市民病院は、紐差病院時代の昭和六十年から元気老人の創出を合言葉に、健康づくり（健診受診、生活習慣の是正、病気を未然

に防ぐ、病気が重症化しないよう定期通院を心がける）を市民の皆様と呼びかけて参りました。そうして二十年経ちましたが、その結果、私達平戸市民の一人当たりの医療費は、長崎県内でも低い位置にありますし、何よりも健診受診を心がけられる方々は、介護保険を使って介護サービスを受けることになっても介護度（重症度）が低く、平戸市の介護保険財政の安定、長崎県内の方々と比べ、一人当たりの介護保険料が低く設定できています。元気で、青壮年層へ介護負担をかける方が少ない高齢者が多い地域ということがいえます。平成二十年から国の保健政策が変わりますが、その骨子に、これらの取り組みが盛

り込まれています。まさに、市民の皆様のご取り組みの成果です。

診療陣の充実を

平成十七年四月から池田 柁一先生、賀来俊先生を迎え入れ、飛躍的な内科診療の充実が図られました。この年にはさらに強固な支援（長崎大学へき地病院再生支援・教育機構）があり、北松浦半島の中では充実した診療体制ができております。ところで、高齢社会では特に求められる診療科の一つに、整形外科が挙げられます。医師の育成を図る新臨床研修医制度が発足して、全国各地で急激な医師不足事態が生じ、このおおを受け、平成十七年四月

から整形外科の窓口を閉じなければならぬ事態となり、市民の皆様には残念な思いをさせました。関係各方面に呼びかけて参りました結果、この四月からは整形外科医師をお迎えすることができました。

診療機器の整備充実を

長年の懸案事項でありましたMRI（超伝導核磁気共鳴診断装置）を設置いたします。これにより、脳病変診断・整形外科診断をはじめとする諸臓器の診断がより正確にできるようになります。本年度も、職員が一丸となつて、市民の皆様方の健康づくりの拠点として運営に努める所存です。

本年4月から平戸市民病院に 整形外科の常勤医師が赴任します

平成17年4月から整形外科の常勤医師が不在で、市民の皆様には、大変ご不便をおかけしましたが、本年4月から平戸市民病院に待望の整形外科の常勤医師が赴任することになりました。先生の詳しいご紹介は、「病院広報」の4月号でお伝えします。市民病院では、今後とも市民の皆様が安心して診療サービスが受けられるよう、診療体制の整備に努めて参ります。

在宅サービス特集

家族のもとで暮らしたい

でも通院できない

こんなときは

在宅サービスを利用して

「高齢になっても、最後は慣れ親しんだ自宅で食事をとり、家族と過ごしたい・・・」各種アンケートでも、80%以上の人がそう望んでいるという結果がでています。しかし、現実的には、介護をしてくれる家族がいない。家族に負担をかけたくない等、介護を担うことになる家族の存在が大きいということが考えられます。こうした家族を支えるのも、在宅医療に関わるスタッフの役割といえましょう。今月号では、こうした在宅で生活する高齢者への在宅サービスにスポットをあててみました。

居宅介護支援事業所

市民病院の居宅介護支援事業所には、ケアマネジャー（介護支援専門員）2名が常駐し、在宅で生活する高齢者やご家族の希望をお聞きしながら、ケアプラン（介護サービス計画）を作成、各医療機関や保健福祉施設等と連携しながら、訪問診療や訪問看護・介護、訪問リハビリを投入したり、入浴困難であれば、訪問入浴を受けられるよう手配する等、最適なサービスが受けられるよう努めています。また、介護保険制度の説明や申請、介護サービスの利用方法、また、施設入所の手続きや利用料金、施設の紹介等も行っています。さらに、介護保険を利用するの住宅改修や車椅子・歩行器等の購入についてもご相談いただけます。今後とも、介護保険制度やご自宅での介護についてお困りのことがあれば、気軽にご相談ください。

訪問診療・看護

草積町の林チノさんは、明治四十二年生まれで、今月九十八歳になります。が、今も元気に家族のもとで生活しています。若干足が不自由なものいた



って元気です。林さんは、現在介護保険を利用して、月一回の訪問診療・訪問看護・訪問介護（ヘルパー）を利用しています。先月自宅を訪ねると、ベッドから起きてスタッフを元気に迎えてくれました。

この日は、医師による訪問診察と血液検査です。診察を終えた医師が「林さん大丈夫ですよ」というと、林さんは「ありがたなことです。病院に行けず、先生や看護師さんが来るのをいつも楽しみにしとります」と感激の様子でした。

市民病院では、通院が困難な在宅療養者への支援のため、地域看護室を設置し、専任の看護師一名を配置、毎月曜日から金曜日まで、外来看護師との協働により訪問活動を行っています。現在訪問看護を利用されている高齢者は、旧平戸市内の中南部地区を中心に約六十名。訪問診療や訪問看護は、外来受診時や退院される時に、本人やご家族から希望があり、主治医や看護師が必要と判断した場合に利用できます。また、介護保険の認定を受けられてい

る方は、ケアマネジャー（介護支援専門員）と連携をとり、利用サービスの調整等を行いながら、利用される高齢者やご家族が、住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援しています。

訪問リハビリ

志々伎町の浦田トシエさん（八十五歳）は、毎週一回の訪問リハビリの他、デイサービスやショートステイ、訪問診療・看護も受けています。自宅を訪ねると、玄関はスロープになっており、



車イスも自由に利用できます。ご家族がトシエさんのためにバリアフリーを考え、住宅改修をしています。この日は、理学療法士と実習生も訪問しました。浦田さんは、左片マヒで機能維持回復のため、毎週一回の訪問リハビリを利用しています。手足の機能がマヒしているため、家族の負担が大きく、何とか手足の機能を維持したいと、自宅でのリハビリに励んでいます。この日は、ベッドサイドでの立ち上がりや歩行器を使った歩行訓練等を行いましたが、訓練の後、浦田さんは「リハビリの先生が毎週来てくれるので、助かっています。」と表情はすっかり明るくなり、この日は記念撮影も行いました。

市民病院では、通院が困難な在宅療養者への支援のため、理学療法士が積極的に地域に出かけ、訪問リハビリの他、転倒予防のための手摺りの設置や段差解消、また、高齢社会を想定した住環境の整備等、バリアフリー化等の相談にも応じています。気軽にご相談ください。



福をよぶ ♪ ♪ 年男年女 亥年



吉永 強



猪突猛進
きらわれないよう頑
張ります。

口石 互



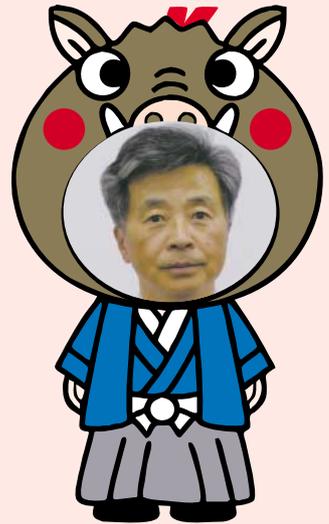
今年は健康に気をつ
け、安全運転に頑張
ります。

五嶋慶子



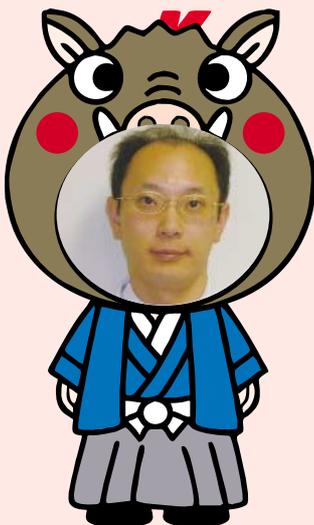
2007年も何事も前
向きに、笑顔で過ご
せるよう頑張ります。

押淵 徹



5頭目の「亥」までは
何とか会うことがで
きた。6頭目に会う日
が来るかな？

小川聡一郎



本年も安全第一の精
神で、皆様の眼の健
康にたずさわりたい
と思います。

西村末子



健康に注意し、仕事
に突進します。
今年もよろしくお願
いします。

川淵和徳



2007年健康で明る
く笑顔で過ごしたい
と思います。
みな様、気軽に声を
かけてください。

第4回糖尿病教室のご案内

■日時：平成19年2月2日（金）12時30分～

■場所：保健センター研修室

【プログラム】

12：30～ 受付（血圧測定）

12：55～ 賀来副院長挨拶

13：00～ 糖尿病網膜症について（講師：眼科 小川医師）

13：40～ 体験コーナー（運動・食事・自由相談）

14：50～ 質疑応答

15：00 終了

※ 参加費は無料です。お気軽にご参加ください。

お問い合わせは、看護師長 末永まで

「おじゃましま～す市民病院です」 市民病院の出前講座

市民の皆様の健康づくりに役立ち、もっと病院を知っていただこうと、各地域に出向いて出前講座を行っています。今回は、12月12日（火）19：00～20：00 根獅子町へおじゃましました。

内容は、講話「ボケと物忘れ」、日常生活の上では、混同して使用してしまいがちですが、ボケと物忘れの違いについて、分かりやすく説明がありました。

「インフルエンザと風邪」についての寸劇は2本立てで、ダジャレをまじえながら予防方法などについて、病院職員が役になりきって演じました。

これから皆様のお住まいの地域にも伺いたいと思いますので、健康相談や病院に対するご意見、ご要望をお聞かせください。

出前講座の依頼もお受けしています。



お問い合わせは、
平戸市民病院（☎28-1113） 総看護師長 松永まで

///皆様のご意見ご要望をお寄せください

市民病院では、市民の皆様からの様々なご意見やご要望をお聞きして、より良い診療や看護、環境づくりに役立てていくことを目的に、「市民の声」の箱を設置しています。

皆様の積極的なご意見ご要望をお寄せください。

また、職員の接遇や診療、看護サービス等についての苦情や気づいたことがあれば、最寄りの職員にお申し出ください。

皆様からお寄せいただいたご意見やご要望は、今後の病院運営に大いに活用させていただくとともに、ご意見に対して、回答が必要なものにつきましては、回答コーナー（掲示板）に掲載紹介させていただきます。

- ◎ 市民の声の箱・設置場所
 - 1階ロビー公衆電話横
 - 2階ダイルーム（食堂）
 - 3階ダイルーム（食堂）
- ◎ ご意見の投稿方法
 - ・上記場所に備え付けの用紙に記入の上「市民の声」の箱にご投函ください。
- ◎ ご意見ご要望に対する回答コーナー
 - 小児科横・給茶休憩室壁



回答コーナー（掲示板）

症例検討会の様子です



毎週火曜日、多種多様な症例について検討会が行われています。レントゲン写真の読影、検査データの検討等、それぞれの立場から意見を出し合い、的確な診断、最善の治療を目指して行われています。

平戸市民病院外来診療医担当表 (平成19年2月1日現在)

診療科	医師	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	池田	診察	診察	(病棟)	診察	(病棟)
	賀来	(病棟)	診察	診察	診察	(病棟)
	飯野	診察	診察	(病棟)	新・急患	診察
	戸川	(病棟)	新・急患	診察	診察	診察
	中桶 (長崎大学)	新・急患	つけかえ	カメラ つけかえ	つけかえ	新・急患
	山本 (長崎大学)	つけかえ		新・急患	(病棟)	つけかえ
神経内科	調 (長崎大学)					診察

*「新・急患」担当は午後も外来診療いたします

診療科	医師	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
外科	押淵	診察	(病棟)	カメラ	診察	(病棟)
	柴田	(病棟)	診察	(病棟)	(病棟)	診察
	北島	カメラ	カメラ	診察	カメラ	カメラ
	午後診察	山本	柴田	北島	中桶	山本

*第3水曜日午後 山下生月病院長診察、大腸ファイバー (CF)

診療科	医師	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
整形外科	派遣医師		診察			

*火曜日は長崎労災病院からの整形外科の診療となります

診療科	医師	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
眼科	小川	診察	診察	診察	診察	診察

診療科	医師	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
小児科	土井	診察	診察	診察	診察	診察

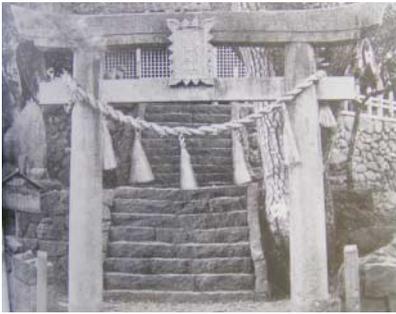
*午後は健診、予防接種等で不在のことがあります

- 受付時間 午前7時45分～11時00分・午後1時30分～5時00分
- 診察時間 午前8時30分～午後5時15分
- 急患は休日・夜間等いつでも受け付けます

平戸市民病院
☎0950-28-1113

ふるさと歴史探訪

—三輪神社—



素盞鳴神社



三輪神社



沖の島

紐差村郷土誌によると、一三五七年(延文二年)都を始め各地で戦乱があり、やむを得ず大和国三輪郷官幣大社三輪大明神の神主である飛騨正は、ご神体を守りながら家来に佐々木時部と船頭には末永角内の二人をつれて、船で九州に向かう。同年の九月十九日、肥前国下松浦郡平戸木ヶ津浦へ着船する。この地の沖の島は、清い島ということで、仮宮を建て御神体を安置し、里芋、木引かぶなどを備えて神勤めをする。村の長とも話し、ここには、神職もいないようなので、柿の坂という所に屋敷を構え、家来は、榎ノ本というところに屋敷をなして過ごしていたが、その後、飛騨正は紐差へ住居を移して三輪氏と名乗る。一三七四年(応安七年)三月、二代目三輪右近藤原家貞は、村の長と計画して、紐差の浦の辺に別に宮を建てて、素盞鳴神社として崇め祭る。その後現在に至るまで、この地の鎮守として見守っている。木ヶ津の上手に柿の坂というところあり、初めここに仮宮を建て後に沖の島に移された。また、柿の坂には船をつないだ船綱石も現存するのと。

病院代の納め忘れは ありませんか

○休日も窓口は開いています

平戸市民病院では、土曜、祝祭日も窓口職員が業務を行っていますので、日頃忙しくて病院に出かけることができないという方は、休日に窓口で納付しましょう。

編集後記

明けましておめでとうございます。新年いかがお過ごしでしょうか。インフルエンザが流行しないと思えば、昨年末はノロウィルスが大流行し大変だったと思いますが、まだ完全には治まってはいないようです。手洗い等十分に気をつけてお過ごしください。今年は暖冬のようなようですが、まだまだ寒い日が続きますので、カゼを引かない様に気をつけてください。糖尿病教室が定期的に行われていますので、気軽にご参加ください。

西村